

## 》商工会議所活用レシピ

# FILE 04

企業経営のため、地域の魅力づくりのため、次代の道を開くヒントをもらっています



料理旅館 伝洋  
代表  
世古 俊夫さん

当館は「食」で売っている宿。昭和50年に三重県鳥羽市の相模地区で父が創業し、私が2代目を引き継ぎました。繁忙期にはパートを何人か雇いますが、普段は妻と息子夫婦、従業員1人で切り盛りしています。

この辺りは、アワビ、サザエ、伊勢エビをはじめとする新鮮な魚介類が人気。現役の海女でもある女将が潜って採ってきた旬の海の幸、自家製の米や野菜などを使った豪華料理が自慢です。食事ならどこにも負けません、小さな宿ですので、なかなか思うように設備が整わないところも。それでも、お客様のニーズに合わせて、少しずつ増改築をしてきました。

天風呂も新設しました。大きな投資だったので経営への影響が心配で、普段から記帳などを指導していただいている経営指導員の小崎さんに相談したところ、金利の低い国民生活金融公庫（当時）の融資制度の紹介など、いろいろお世話になりました。その後も民間金融機関から資金を借り入れる時には、一緒に銀行の窓口とねばり強く交渉してくれ、より低金利の県の保証協会などの制度を活用した貸付に変更してもらったりと、大変助かっています。さらにお客様の満足を得るためには、当館だけの努力では限界があります。来街者が楽しめる観光スポット——つまり地域の魅力の向上が必要になってきます。

み、当地特有の海女文化を積極的に発信し、海女小屋体験、海女文化資料館の開設など独自性を打ち出すことにしました。関係者の努力が実を結び、国内外のマスコミからも注目され、観光客も年々増加しています。お客様にも「来年は、こんな風になつていきますよ。また来てくださいね」とアピールしやすくていいですね。

私は、商工会議所とは企業の相談役であり、そして次の時代どうあるべきか、新しいやり方や道を開くためのヒントを教えてください。当館も、将来は息子が継ぐ予定です。よい状態で継承できるように、これからも商工会議所と連携を深めながら頑張っていきたいと思っています。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言



鳥羽商工会議所（三重県）  
経営指導員  
小崎 則彦

伝洋さんは、お客様のニーズを的確にとらえ、実行に移しています。リピーター客が多いということからも、顧客満足度の高さがうかがわれます。ウリである「食」の工夫はもちろん、設備投資もいろいろされたようですが、経営に響かないよう、今後ともイメージなどをアドバイスしていくつもりです。低金利の貸付制度を活用され財務状況はかなり安定されています。

一方、町内会のキーマンとして、商工会議所のまちづくり活動にご協力いただいています。相模地区はあのみしゅらん星がつくなど、魅力的な地域資源がたくさん。これらを生かし、一層お客様に喜ばれる旅館になってほしいです。